

# 福島敏夫随筆集「乙戸南雑話『花鳥風月及び星・虹を愛でながら』」

## 主宰論説 52

### 2025年を振り返って（その2）

激動の 2025年も、まもなく、終わろうとしています。

劣化・低下した機能の完全回復は、一般的には難しいと言われますが、私自身は、今年も、懲りず諦めず、体の諸機能の回復を目指したリハビリテーションに励みました。相変わらずぶり返す腰痛や、なかなか回復しない左手の握力低下に悩まされましたが、他の不具合は、かなり改善しました。まず、血行不良による歩行困難は、ほぼ改善され、二足歩行は、可能になりました。腰痛でしゃがみ込むこともあり、長距離遠出は、まだまだ難しいながらも、短距離だと、杖無しでも大丈夫なようです。ですが、「転ばぬ先の杖」といいますから、散歩の際は、常時、杖を利用しています。また、加齢による業病とされる緑内障も、今のところ、眼圧は、10から11で安定しているので、回復しないまでも、進行は沈静化しており、失明の恐れはなく、まだまだ好きな可視化の研究は、続けられそうです（今年最後の緑内障の進行程度を調べる定期検診も、お陰様で大丈夫だったようです）。幸運に感謝したい。生命力や寿命もあり、あと何年続けられるか分かりませんが、知力・体力・学力の回復を図り、やり残した話の実現を図りたいと思います。可視化の話など、自分の好きなことをやり続けると、結果的には、世のため、人のためにも連なっていると思っています。様々なトラブルにもかかわらず、いろいろの人に助けられて、今年も懲りずに、光、水、二酸化炭素に関連したいろいろの劣化現象の数学的定式化や可視化の研究を続けることも出来ました。ただ、今年が、区切りと節目になるかもしれません。

数独パズル、クロスワード・パズル、偏微分方程式等の応用数学、劣化過程の可視化・映像化などを楽しんでいるので、頭の働きは、まだまだ残っているらしいです。ですが、随分長らくやっているのですが、インターネットを利用した囲碁、麻雀は、相変わらず、まるでダメなようです。短時間での判断を伴うというハンディーを考えたとしても、よほど才能がないようです。しかし、最近、少しだけ、実力アップ模様ですので、懲りずに続ける積りです。また、新聞・雑誌上だけでなく、新たに、WEB上で、数独パズル、クロスワード・パズルなどを楽しんでいます。

今年は、昨年と同様に、かなり焦点を絞った形でしたが、かなり多方面の活動を続けることができたように思われます。

自分のWEB上の建築環境材料研究所 2 のホームページを通じて、花鳥風月及び星・虹を愛でながら、言論の自由と情報発信と啓蒙による世界貢献に努めるかたわら、“多頭流方式”での研究活動を続けることができました。パソコン起動に関わるトラブル、WEB上での公開が遮断されるというような予期せぬ障害を何とか克服し、懲りずに、がんばりました。

2月後半には、オンライン形式でしたが、マテリアルライフ学会の第 29 回春季研究会で、「ポリプロピレンの光誘起型促進リサイクル法（その2）-光解重合反応と光酸化反応の同時施行の複合変換効率」というタイトルでの研究発表を終えることができました。耐候性評価のための機器分析など、他の研究者の興味深い研究発表にも触れ、PowerPoint ファイル共有上のいささかのトラブルに関わらず、無事に済んだのは、幸いだったと思います。

今年も、学会発表は、遠出は、避け、東京圏内に限定しました。

6月中旬、明治大学の駿河台キャンパスで開催された日本無機マテリアル学会で、「資源と環境の両視点からの混合セメントコンクリートの持続可能性評価」というタイトルでの研究発表を行いました。また、お茶の水のソラシティコンファランスセンターで開催された第 79 回セメント技術大会にオンラインで参加し、セメント科学・技術に冠する研究の最新動向についての情報を得ることができました。

7月上旬のマテリアルライフ学会は、川崎の島津製作所のイノベーション・センターでの対面方式の開催でした。

「ポリビニル系高分子材料の光劣化過程の可視化（その9）-ポリスチレンの光劣化速度の既存文献調査とケミカル・リサイクルの展望」という内容で、無事研究発表を終えることができました。また、高分子材料の寿命等に関する多面的視点からの取り組みと最新の研究成果についての貴重な情報を得ることができました。

10月下旬には、久しぶりに東京大学山上会館で開催された鯛30回日本建築工学会学術講演会に参加し、「外断熱材料システムにおける水蒸気移動過程の可視化（その9）-半球多層型シェルへの適用」というタイトルで、無事、研究

発表を終えるとともに、建築仕上の研究・技術の最新動向についての情報を得ることが出来ました。

また、12月初旬、マテリアライフ学会の第7回マイクロプラスチック・シンポジウムに、オンライン方式で参加しました。海洋・陸地・大気中で観測され、生態系に深刻な影響を与えるとされるマイクロプラスチックの最新動向とその有効な対応策の現状について最新の動向について、知ることができました。

他方、振り返りますと、昔国際会議等を通じて訪れた、世界各国（フィンランド、スウェーデン、オーストラリア、カナダ、フランス、スペイン、ドイツ、イギリス、アメリカ、シンガポール、中国、インドなど）や、主要な都市（パリ、ロンドン、マドリッド、ドレスデン、シンガポール、ニュー・デリー、西安、メルボルン、バンクーバー、オッタワ、モントリオール、ホノルル、ニューヨーク、ワシントンなど）の素晴らしい風景や美しい街並みや庭園の映像が、MS-Edge、YouTube、Facebook等を通じて提供され、楽しむこともできました。

また、日本の学・協会の研究会への参加等を通じて訪れた日本各地（京都・奈良・大阪、札幌・小樽・函館、富山・金沢・新潟、和歌山・三重、大宰府・福岡・熊本・鹿児島、別府・湯布院、阿蘇・雲仙、門司・長府・萩、広島・岡山・神戸、名古屋・浜松・静岡、横浜・東京、日光・つくば、江の島・鎌倉、仙台・平泉、会津若松・郡山等）の素晴らしい風景や美しい街並みや庭園の映像、あるいは、山・川・海の絶景や、動・植物の生き生きとした生態、美しい虹や星の映像、日本の桜の花や紅葉や雪景色等に代表される四季の移り変わりの映像、神社・仏閣・花園のライトアップの映像が提供され、楽しむことが、できました。最近では、富士山、立山連峰、筑波山等のいろいろな山の情景、世界各国の世界的な月の百景も、提供して頂けるようになりました。世界各国の世界的な建築家の名建築のデザインばかりでなく、無名のデザイナー等によるインテリア・デザインについても、映像および活字による情報を提供してもらえ、新たな感覚を養うこともできました。また、橋やダム、上水道等の土木遺産の映像や活字による情報も提供して頂き、社会的インフラの実態にも触れることができました。テレビでの「世界遺産」の紹介番組、新「美の巨人たち」の紹介番組を通して、世界自然遺産の絶景や建造物の芸術的美景を楽しみました。

訪れた主な都市等における紀行文は、WEB上での福島建築環境材料研究所2の新生pc版トップページのPDFファイルとして、まとめることが出来ました。

また、YouTubeを通じて、いろいろな音楽を楽しみました。いろいろな世界の諸国の民謡（イギリス民謡、アメリカ民謡、スペイン民謡、フランス民謡、ドイツ民謡、フィンランド民謡、チェコ民謡、ポーランド民謡、トルコ民謡、ペルシア民謡、ウズベキスタン民謡、インド民謡、ベトナム民謡、ペルー民謡、フィリピン民謡、インドネシア民謡、ロシア民謡、中国民謡、台湾民謡、韓国民謡、日本民謡など）、フランスおよび日本のシャンソン（パリの空の下で、夜明けの歌、愛の讃歌など）、日本の懐かしい歌謡曲（青い山脈、時計台の鐘、ニコライの鐘、長崎の鐘、希望、ジュピター、北ウィング、北空港、北の旅人、熱い心に、二人の銀座、喝采、乾杯、いい日旅立ち、川は呼んでいる、川の流れのように、異邦人、銀色の道、サライなど）や日本の唱歌・童謡（からたちの花、冬の星座、富士山、アルプス一万尺など）、旧制高等学校寮歌（ああ玉杯に花受けて、散りにし花は幻か、紅もゆる丘の花、北の都に秋たけて、椿花咲く、都ぞ弥生の黒紫に、伊吹おろしなど）、東日本大地震等からの復興支援ソング（スタンド・アロン、君を乗せて、花は咲くなど）や、クラシック音楽（アラフェンス協奏曲、G線上のアリア、美しき青きドナウ、ドナウ川の漣、乙女の祈り、トルコ行進曲、田園、新世界「家路」など）、世界のヒットメロディ（真珠取りのタンゴ、エーゲ海の真珠、シバの女王、夜空のトランペット、コーヒールンバ、南国の夜、虹の彼方に、コンドルは飛んでゆくなど）、日本の懐かしい流行歌（知床旅情、ブルーライト・ヨコハマ、いつでも夢を、星のフラメンコなど）を愉しむことができました。ピアノ、ギター、バイオリン、エレクトロン、ウクレレ、オカリナ、ハーブ、ハーモニカ、アコーディオン、二胡、ケーナ、バイオリン、トランペット、フルートなど、多様な楽器による音楽も、楽しませて頂きました。Facebookのソーシャルネットワーク（SNS）で、いろいろな人、サークル、同好会、イベントとつながり、いろいろな情報授受・交換を持つことができました。ありがとうございました。

夏と冬の二季だけになって、四季が亡くなったのかと思うような異常気候が続き、世界の戦乱・内乱や、天変地異の爪痕は、収まっていません。未解決なことが余りにも多いのは、気になるところです。ですが、花鳥風月および星・虹を愛でることで、いろいろな意味で癒しとなり、ほのぼのとした気持ちにもなるようです。改めて、静かな良い年末と夢と希望と光の見える正月を迎えられることを期待したいものです。今年の皆様のご厚情に感謝したいと思います。皆様、良いお年をお迎え下さい

令和7年12月21日初稿

令和7年12月22日再校

令和7年12月31日最終版

